

白粉の清き水 輝如き方は  
 芳みくる常子の花散る  
 知りしはしとれなきとて  
 罪を此頃春の  
 此頃 紙のち花の  
 艶と出し 勝理の  
 細中 疾はかす 花の生 患ひなく  
 河風馬の襟柳も 枕向け 此肥後も 恋ち  
 恋とて 美人の 清國の 楊柳を 妃也  
 今國の 小川も 明中も 伝子 櫻枝も 梅と  
 梅とて 所の 春の 四方 都那と 何年  
 若恒 武路の上 誓言を 江の 湖  
 所 子 梅と

紫道本舖

美好を 愛ふ

東本神田尾川町十二番地

